HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第二部　部局史.　医療技術短期大学部
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 1259-1271
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/28216
Type	bulletin (article)
File Information	hokudai125yr_tsuusetsu_1259.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

医療技術短期大学部

第一章　通史

第一節　前史――医学部附属学校の時代――

明治に入り、北海道では人口が増加する一方、妊産婦・乳幼児の死亡や伝染病の蔓延など保健医療は劣悪な状況にあり、医師のほか、助産婦や看護婦の養成は緊急な課題であった。助産婦（当時は産婆）の養成は開拓使により一八七九（明治一二）年頃から函館、札幌、根室の公立病院で開始され、その後は産婆学術試験も実施された。看護婦の養成は一八九三（明治二六）年頃から日本赤十字社の事業として始められ、その後養成所が道内各地の病院に設置された。こうした中、北海道大学に医学部が新設された翌年の一九二〇（大正九）年に看護法講習科（講習期間二年）が、一九二一（大正一〇）年には産婆養成所（修業年限二年）が設置され、本学での医療技術者教育が開始された。

第二次大戦後の一九四八（昭和二三）年に「保健婦助産婦看護婦法」が制定されたのを受け、看護婦・助産婦の養成所はそれぞれ看護学校（三年課程、一九五一年改称）、助産婦学校（一年課程、一九五二年改称）となった。一九五一（昭和二六）年には「診療放射線技師法」が制定され、一九五六（昭和三一）年に道内初の診療エックス線技師学校（二年課程）が設置された。一九五八（昭和三三）年には「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律」が制定され、一九六六（昭和四一）年に衛生検査技師学校（二年課程）も設置された。これらはいずれも医学部附属学校としての設置で、予算も乏しく、医学部旧研究室などを利用した劣悪な設備・環境下での発足であった。その後、診療エックス線・衛生検査両技師学校は三年課程の診療放射線技師学校、臨床検査技師学校に改組された。

一九七二（昭和四七）年に四つの附属学校は旧医学部跡地の新校舎に移転し（現・医療技術短期大学部校舎三階建て部分）、一九七五（昭和五〇）年に看護・診療放射線・臨床検査の各校は「各種学校」（学校教育法第八三条）から「専修学校」（同八二条の二）へと昇格した（『北大医学部五十年史』参照）。一方、理学療法士・作業療法士は一九六五（昭和四〇）年に「理学療法士及び作業療法士法」が制定され、養成制度が確立したものの、道内での養成は医療技術短期大学部設置まで待たなければならなかった。

第二節　医療技術短期大学部の設立から現在まで

文部省は医学部附属学校を改組・昇格する方針を固め、一九六七（昭和四二）年から順次昇格させていった。本学では学校関係者の期待に反して医療技術者教育高度化への認識は十分ではなく、設置準備室は一九七九（昭和五四）年四月に、創設準備室は一九八〇（昭和五五）年四月にようやく設置された（両室長とも村尾誠看護学校長・第一内科教授）。一九八〇（昭和五五）年十月、北海道大学に医療技術短期大学部看護学科が併設され、新校舎建築が開始された。一九八一（昭和五六）年四月には理学療法学科と作業療法学科が設置され、道内初の理学療法士・作業療法士の養成が開始された。また、クラーク会館において、赴任した一二名の教官（一般教育等六名、看護・理学・作業の各二名）と看護学科第一回生の参加の下、開学式と入学式が挙行された。一九八二（昭和五七）年には衛生技術学科、一九八四（昭和五九）年には診療放射線技術学科、一九八五（昭和六〇）年には専攻科助産学特別専攻が設置され、四月にそれぞれ入学試験と入学式が行われた。教官も学科の学年進行とともに年々増加し、校舎を含め教育体制が整備された。一方、各附属学校は学生募集を停止し、順次閉校していった。この時点で、本学部は五学科と一専攻科で構成され、学年進行後、学生数六二〇名、教官数六三名に職員を加え、総勢七百余名を擁

する学部となった。また、本学部は北海道大学の一部局として、部長の評議会参加や学生委員会など全学の委員会への参加を通じて管理・運営の責任を担うことになった。本学部学生も、厚生施設の利用やサークル活動、大学祭などで全学の一員としての参加が可能となり、学生生活は質的にも大きく向上した。教官も文部省の在外・国内研究員をはじめ、科学研究費の申請などを通じて自由な研究活動が可能になり、教育・研究活動は飛躍的に発展した。一九九〇（平成二）年、創設一〇周年を記念して公開講座が開催され、以後市民対象の保健医療に関する社会教育活動として定着している。開学から二〇年を迎え、卒業生はすでに約三五〇〇名を数え、道内外での保健医療や教育研究に大いに活躍している。

第三節　四年制大学化と大学院の開設へ

近年、医療技術者の大学および大学院教育が急速に進み、これは本学部の設立当初からの目標でもある。このため、一九八八（昭和六三）年には四年制問題ワーキング・グループを発足させて国内外の資料収集を開始し、一九九一（平成三）年以降は四年制検討委員会から準備検討委員会へと発展・改組させ、設置計画を検討してきた。一方、文

写真１　医療技術短期大学部開学記念式典
（1981年4月11日、於 北大クラーク会館）

部省は医療技術短期大学部を医学部保健学科へ改組し、併せて大学院を設置する方針の下、一九九三（平成五）年から相次いで全国の医療技術短期大学部を保健学科へ昇格させ、大学院を開設させてきた。こうした状況下、本学部では医学部との間に医学部保健学科設置準備委員会（委員長・医学部長）を設け、一九九八（平成一〇）年には評議会で保健学科設置の方針が決定された。その後、文部科学省への概算要求を経て、二〇〇三（平成一五）年十月に医学部保健学科の設置が実現する見通しとなり、学年進行に伴う大学院の設置も予定されている。

第二章　学科等

第一節　一般教育等

医療技術短期大学部に入学した新入生が最初に学ぶ主な科目は人文・社会科学などの教養科目、物理、化学、生物などの基礎科目、保健体育科目および外国語科目であり、これらを担当する一般教育等専任教官として六名が一九八一（昭和五六）年四月に、三名が翌年四月に着任した。一般教育等科目の目的は、専門に偏ることなく、幅広い知識と教養、豊かな人間性や創造力を養うことにある。そのため、学内外の多くの非常勤講師の協力も得て、学生が学ぶ機会を数多く提供するよう努めてきた。ほとんどの専任教官が交代したが、今もこの教育目的は変わっていない。一九九一（平成三）年の大学設置基準大綱化以降、「一般教育」の名称はほとんどの大学から消えたが、全国の医療短期大学には「一般教育等」又は「総合教育」として残っている。しかし四年制化が実現した暁には、

新入生は他学部学生と同様に充実した全学教育科目を受講することになる。

第二節　看護学科

北海道大学における看護教育は八〇年にわたる長い歴史を持っている。本看護学科の前身である医学部附属看護学校では第一～三三回生まで一四二〇名が卒業、それ以前の看護法講習科、厚生女学部の卒業者を合わせ二九〇〇名を超える看護者を世に送り出したことになる。一九八〇（昭和五五）年十月に設置された医療技術短期大学部看護学科（三年課程・一学年八〇名）は医学・医療の進歩にともなう、より高度な専門的技術を持った看護者の教育および看護研究を行うことが目的である。二〇〇〇（平成一二）年四月には看護学科第二〇期生が入学、卒業生は一三〇〇名を超え、医学部附属病院をはじめ、道内外のさまざまな分野で活躍している。また最近の卒業者の進路では約三五～四〇％が助産婦・保健婦の資格取得のために進学したり、他の四年制大学（とくに看護系）に編入するなど高学歴志向が見られる。今後さらに人口の高齢化や疾病構造の変化が予想され、個人・家族・地域における保健上の問題でも看護の役割はますます拡大・多様化すると考えられる。従って、このような社会的ニーズに応えるためにも四年制の医学部保健学科として、さらに大学院研究科における看護領域の高度職業人と教育者・研究者の育成を目指した変革が求められている。

第三節　理学療法学科

国際障害者年に、作業療法学科とともに道内初の養成課程として各界より期待されて誕生した。学生数は一学年

二〇名で計六〇名、教官は九名（六名が理学療法士、他は生理学・内科学・整形外科学の教官）で、少人数での恵まれた教育環境にある。最近の学生構成は、男女半々で社会人や大卒者の比率が高くなってきている。授業や臨床実習では、医療職種の特性から、患者・障害者の機能回復や疾病を癒すことの理解を重視している。開学以来、三〇〇名以上の卒業生を送り出し、道内外の医療施設、養成校、医療行政などの分野で活躍している。

第四節　作業療法学科

理学療法学科と同じく学生数は一学年二〇名で計六〇名、教官は九名（六名が作業療法士、他は解剖学・精神医学・神経学の教官）である。学生は女子が多数を占めるが、社会人や学卒者の比率が高いことも当学科の特徴である。授業や臨床実習では志向する職業特性から、患者・障害者の心身機能や社会機能の理解を重視している。これまで三〇〇名以上の作業療法士を送り出したが、八割以上が道内在住で、多くが老年・身体障害系、精神系の病院・施設に勤務している。学生実習を担当したり、養成教育に関わる者も増える傾向にある。

第五節　衛生技術学科

一九六六（昭和四一）年に産声をあげた二年制の医学部附属衛生検査技師学校は六期生で一九七三（昭和四八）年に終了し（卒業生一一五名）、これに代わり一九七二（昭和四七）年に開設された三年制の臨床検査技師学校も一〇期生の卒業で幕を閉じた（卒業生一九八名）。医療技術短期大学部衛生技術学科の開設は一九八二（昭和五七）年で初代学科主任の唐嶋田隆教授を病で失う不幸をみたが、以後順調に運営され、二〇〇一（平成一三）年三月現

在で、一七期生まで卒業生は計六四七名に達している。うち五一三名（七四％）は病院や検査センターなどでの臨床検査業務に携わっている。大学等研究機関の技官として働くものも少なくない。他業種で活躍しているものも数名おり、海外青年協力隊等の国際協力に参加しているものが常に一～二名いる。一方、卒業後四年制大学への再入学は医科大学、本学歯学部、他大学獣医学部などである。他大学医学部保健学科系への三年次編入生は最近一〇年間で一八名を数え、うち六名が大学院に進学し、臓器移植や遺伝子診断など高度先進医療を支える専門性の高い臨床検査技師や研究者・教育者への道を歩み始めている。

第六節　診療放射線技術学科

診療放射線技術学科は一九五六（昭和三一）年四月に創設された北海道大学医学部附属診療エックス線技師学校（二年制）が最前身となる。その後、道内唯一の放射線技師養成施設として発展的変遷を重ね、医療技術短期大学部に一九八四（昭和五九）年四月診療放射線技術学科が設置された。一九八七（昭和六二）年三月に第一回生（三四名中女子五名）を送り出して以来、二〇〇一（平成一三）年三月まで一五期生、五四〇名以上（内女子約一六一名）を輩出してきた。診療放射線技師の学校教育が開始されて以来、四四年間に一〇〇〇名以上が世に送り出され、医療技術者として道内のみならず全国各地で活躍している。最近は科学技術庁の認可による放射線取扱施設として、Ｘ線テレビ装置、Ｘ線ＣＴ、超音波装置、医用画像デジタイザ等を揃え、着々と実習を充実させ、また教官の教育研究活動も活発となってきている。学生の動向としては、医療系短期大学の四年制化が進む社会情勢の中、四年制大学へ再入学・編入学し、学士を取得するもの（一三名）が増え、更に大学院進学（六名）による修士・博士の学位取得者が増えつつある。卒業生のこのような動きが道内の医療技術の発展を支え、また医療系大学の教育者・研

究者をも確保してくれるものと期待している。

第七節　専攻科助産学特別専攻

専攻科の前身は一九二一（大正一〇）年十一月一日に開設した「産婆養成所」に始まる。戦後の一九五二（昭和二七）年に医学部附属医院助産婦養成所から北海道大学医学部附属助産婦学校と改名され、初代の教育主査（後に教務主任）として星谷千重が着任した。北大の助産婦学校は質素倹約、慈愛を旨とした教育が行われ、助産婦学校の校風はその歴史を閉じるまでの三三年間脈々と受け継がれて五三四名の卒業生を送り出した。現在多くの卒業生が、病院、地域、教育においてリーダーとして活躍している。医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻は一九八五（昭和六〇）年に新出発し、発足時、専攻科助教授として工藤美樹が着任し、専攻科の礎を築いた。二〇〇一（平成一三）年三月には一六期生を送り出した。一九九六（平成八）年には、学位授与機構から学士課程の認定を受け、この制度により学士を取得しようとする学生も徐々に増加している。卒業生の動向は、臨床現場はもちろん、四年生大学に編入学したり、海外で助産婦として活躍する者など多岐にわたっている。四年制大学での助産婦教育の充実が叫ばれるなか、これらの動向は将来の助産学の発展に充分寄与出来る人材が育ちつつあることの証左である。

〔執筆　中島保明・中村仁志夫（総括）、三浦敏明（一般教育等）、森下節子（看護学科）、飯坂英雄（理学療法学科）、上野武治（通史・作業療法学科）、小林清一（衛生技術学科）、下妻光夫（診療放射線技術学科）、岩田銀子（専攻科助産学特別専攻）〕

年表

一九二〇（大9）

9・15　北海道帝国大学看護法講習科設置（札幌市北八条西五丁目）、第一回生四〇名、看護婦養成が開始された

一九二二（大10）

7・　同講習科を医学部附属医院に移管認可、北海道帝国大学医学部附属医院看護法講習科と改称された

7・　講習科長は院長兼務、初代科長に秦勉造医学部教授就任

10・1　医学部附属医院に産婆養成所を設置（修業年限二年）

一九二三（大11）

8・　医学部附属医院看護法講習科第一回生三五名卒業

一九二六（大15、昭1）

9・1　医学部附属医院産婆養成所規程の一部改正により補習科を開設（修業年限一年）

一九四五（昭20）

6・16　看護法講習科を厚生女学部と改称、初代主事に奥田義正教授就任

一九四七（昭22）

6・10　附属医院産婆養成所を附属医院助産婦養成所と改称

一九四八（昭23）

4・　附属医院厚生女学部に高等女学校卒業を入学資格とする専攻科が設置された（修学年限二年）

一九四九（昭24）

5・31　学部附置の研究施設として医学部に看護婦養成施設が設置された

一九五〇（昭25）

4・17　附属医院厚生女学部が保健婦助産婦看護法により甲種看護婦学校の指定をうけた

一九五一（昭26）

3・31　第一回生一六名卒業、厚生女学部本科第五回生（最終生）卒業

4・1　国立学校設置法の一部改正により附属看護婦養成施設を北海道大学医学部附属看護学校と改称、初代校長に高杉年雄医学部教授就任

一九五二（昭27）

4・1　国立学校設置法の改正により附属助産婦養成施設を北海道大学医学部附属助産婦学校と改称、初代校長に小川玄二医学部教授就任

10・11　同助産婦学校は保健婦助産婦看護法の規定による助産婦学校として指定をうけた

一九五六（昭31）

4・1　国立学校設置法規則の一部改正により医学部に診療エックス線技師学校（二年課程）を設置、初代校長に若林勝医学部教授就任

4・28　医学部附属診療エックス線技師学校第一回入学式挙行（第一期生二一名入学）

一九五八（昭33）

3・24　医学部附属診療エックス線技師学校第一回卒業式挙行（第一期生二一名卒業）

一九六六（昭41）

4・1　国立学校設置法規則の一部改正により医学部に衛生検査技師学校（二年課程）を設置、初代校長に高杉年雄医学部教授就任

4・15　医学部附属衛生検査技師学校第一回入学式挙行（第一期生二〇名）

4・15　医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科（一年課程）が設置された（第一期生四名入学）

4・16　医学部附属衛生検査技師学校が衛生検査技師法に規定する学校として指定された

一九六七（昭42）

3・20　医学部附属診療エックス線技師学校専攻科第一期生四名卒業

一九六八（昭43）

3・20　医学部附属衛生検査技師学校第一回卒業式挙行（第一期生一八名卒業）

一九六九（昭44）

4・1　国立学校設置法規則の一部改正により附属診療エックス線技師学校を診療放射線技師学校（三年課程）に改組、初代校長に若林勝医学部教授就任

一九七〇（昭45）

3・20　医学部附属診療放射線技師学校第一回卒業式挙行（第一期生一五名卒業）

一九七二（昭47）

4・1　国立学校設置法施行規則一部改正により医学部附属衛生検査技師学校を臨床検査技師学校（三年課程）に改組、初代校長に白石忠雄医学部教授就任

4・10　医学部附属臨床検査技師学校第一回入学式挙行（第一期生二〇名入学）

一九七三（昭48）

4・1　医学部附属衛生検査技師学校が廃止された

一九七五（昭50）

3・15　医学部附属臨床検査技師学校第一回卒業式挙行（第一期生一九名卒業）

一九七九（昭54）

4・1　北海道大学に北海道大学医療技術短期大学部設置準備室が設置された

一九八〇（昭55）

4・1　北海道大学に北海道大学医療技術短期大学部創設準備室が置かれた

10・1　国立学校設置法の一部改正により北海道大学に北海道大学医療技術短期大学部が併設された

10・1　初代学長として今村成和北海道大学学長、初代主事に村尾誠医学部教授が就任した

10・1　国立学校設置法施行規則の一部改正により看護学科（三年課程）が置かれた

一九八一（昭56）

3・5　北海道大学医療技術短期大学部二一一三平方メートルの新築工事が落成した

4・1　国立学校設置法施行規則の一部改正により理学療法学科及び作業療法学科（三年課程）が設置された

4・11　北海道大学クラーク会館講堂において開学式を挙行

4・11　同講堂において看護学科第一回入学式挙行（第一期生八〇名入学）

4・28　理学療法学科、作業療法学科第一回入学式挙行（第一期生各二〇名入学）

5・1　第二代学長に有江幹男北海道大学学長が就任した

一九八二（昭57）

3・18　医療技術短期大学部二九〇〇平方メートルの新築工事、二〇平方メートルの増築工事が落成した

4・1　主事に恩村雄太医学部教授が就任した

4・1　国立学校設置法施行規則の一部改正により衛生技術学科（三年課程）が設置された

4・28　衛生技術学科第一回入学式挙行（第一期生四〇名入学）

一九八三（昭58）

3・31　国立学校設置法施行規則の一部改正により医学部附属看護学校が廃止された

一九八四（昭59）

3・22　北海道大学医療技術短期大学部第一回卒業式挙行（看護学科六九名、理学療法学科一八名、作業療法学科一八名卒業）

3・31　国立学校設置法施行規則の一部改正により医学部附属臨床検査技師学校が廃止された

4・1　医療技術短期大学部に診療放射線技術学科（三年課程）が設置された

4・25　診療放射線技術学科第一回入学式挙行（第一期生四〇名入学）

一九八五（昭60）

3・22　医療技術短期大学部衛生技術学科第一期生三七名卒業

3・27　医療技術短期大学部一六四七平方メートルの増築工事が落成した

4・1　主事に齋藤玲教授が就任した

4・1　国立学校設置法施行規則の一部改正により医学部附属助産婦学校が廃止された

4・1　医療技術短期大学部に専攻科助産学特別専攻が設置された

4・22　専攻科助産学特別専攻第一回入学式挙行（第一期生一三名入学）

9・20　第四回国立大学医療技術短期大学部理学療法学科・作業療法学科連絡協議会を主催（本短期大学部会議室）

12・17　北海道大学医療技術短期大学部創立五周年祝賀式を挙行

一九八六（昭61）

4・1　国立学校設置法規則の一部改正により医学部附属診療放射線技師学校が廃止された

一九八七（昭62）

3・20　医療技術短期大学部診療放射線技術学科第一期生三

5・1　四名卒業
8・26　第三代学長に伴義雄北海道大学学長が就任した
10・16　第一一回国立大学医療技術短期大学部一般教育協議会を主催（北海道大学百年記念会館）
　第一五回国立大学医療技術短期大学部部長・事務長会議を主催（北海道大学百年記念会館）

一九八九（昭64、平1）

4・1　主事に鈴木重男教授が就任した
5・29　北海道大学医療技術短期大学部主事が北海道大学医療技術短期大学部部長に変更された
5・29　初代部長に鈴木重男教授が就任した
6・6　第四回国立大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科連絡協議会を主催（本短期大学部会議室）
6・7　第四一回全国診療放射線技師教育施設協議会を主催（ＫＫＲ札幌）
7・24　第一五回国立大学医療技術短期大学部看護学科連絡協議会を主催（ＫＫＲ札幌）

一九九〇（平2）

8・25　第一回北海道大学医療技術短期大学部公開講座が開催された（中高齢者の家庭リハビリテーション）
10・5　医療技術短期大学部創設一〇周年記念式典を挙行

一九九一（平3）

5・1　第四代学長に廣重力北海道大学総長が就任した

一九九三（平5）

4・1　部長に齋藤玲教授が就任した

一九九五（平7）

4・1　部長に鈴木重男教授が就任した
4・1　今宮明男前教授、吉田京子前教授に北海道大学医療技術短期大学部名誉教授の称号が授与された
5・1　第五代学長に丹保憲仁北海道大学総長が就任した

一九九六（平8）

4・1　吉田敏雄前教授、齋藤玲前教授、坂本三哉前教授、田中英二前教授に北海道大学医療技術短期大学部名誉教授の称号が授与された
4・1　専攻科助産学特別専攻が学位授与機構が定める要件を満たす専攻科として認定された
10・3　第一五回国立大学医療技術短期大学部理学療法学科・作業療法学科連絡協議会を主催（ＫＫＲ札幌）

一九九七（平9）

4・1　部長に森田穰教授が就任した
4・1　鈴木重男前教授に北海道大学医療技術短期大学部名誉教授の称号が授与された
9・18　第三四回国立大学臨床検査技師教育施設協議会を主催（北海道大学学術交流会館）

一九九九（平11）

4・1　末永義圓前教授、山口成厚前教授に北海道大学医療技術短期大学部名誉教授の称号が授与された

二〇〇〇（平12）

4・1　鈴木重統前教授に北海道大学医療技術短期大学部名誉教授の称号が授与された

二〇〇一（平13）

2・20　次期部長に松野一彦教授が選出された